【番外編～柿の木～】

実りの秋を迎え、食べ物も一層美味しく感じる季節となりました。

今月の“イッピン”は、本日 10 月 27 日がちょうど斎藤實の生誕日ということもあり、番外編として当館旧宅庭にある「柿の木」をメインに、それにまつわる實のエピソードをご紹介したいと思います。

斎藤實は安政５（1858）年 10 月 27 日にこの水沢吉小路に生まれました。幼名は「富五郎」といい、１歳年上の後藤新平らと雑魚取りや夏には水浴びをすることも多くありました。木登りが好きで、よく自宅や近所の庭にある柿の木に登っては叱られていました。

時は過ぎ、昭和７（1932）年 10 月に實が内閣総理大臣として初めて帰省した時のことを知人が次のように語っています。「吉小路の邸の池辺の柿の木の下に立たれ、木を軽く叩かれ乍ら見上げて、『之に私は木登りしたものだ』」（原文ママ）と懐かしそうに幼い頃の思い出を微笑み語ったといいます。知人は「国務繁忙の裡に在り乍らも故郷忘じ難しと言われた子の面目躍如として深い感銘を受けたことがあった。」とも述べています。

当時實が見上げた木の２世にあたる柿の木を現在も旧宅庭で見ることができます。近年は全国的にクマが頻出し食害等の心配もありますが、今年もたくさんの実をつけ、時代の移ろいとともに記念館を訪れる皆様を見守っています。



生家庭の柿の木を見上げる實



現在の柿の木の様子

